

## 地球温暖化問題への対応に向けたICT政策に関する研究会 評価対応WG（第2回会合）議事要旨

1. 日時：平成19年10月19日（金） 14：00～16：00

2. 場所：経済産業省別館10階 1031号会議室

3. 出席者：

(1) 構成員（敬称略、五十音順）

安藤亨（KDDI（株））、石井晃（日本放送協会）、井上浩之（（社）電子情報技術産業協会、ソニー（株））、神崎洋（トヨタ自動車（株））、小林英樹（（株）東芝 代理：小林由典）、高橋正登（（社）日本民間放送連盟、（株）東京放送）、津田邦和（NPO法人ASPインダストリーコンソーシアムジャパン）、中山憲幸（日本電気（株））、西隆之（（株）日立製作所）、西史郎（日本電信電話（株））、野田健太郎（日本政策投資銀行 代理：伊藤陽）、端谷隆文（富士通（株））、森俊介（東京理科大学）、山田英二（（株）NTTデータ）

(2) 総務省側

藤本情報流通高度化推進室長、野中情報流通高度化推進室課長補佐、中村情報流通高度化推進室振興係長

4. 議事

(1) 開会

(2) WGの公開について

(3) 議題

- ① ICTによる環境負荷低減事例の募集について
- ② 通信分野の電力消費量、CO<sub>2</sub>排出削減効果について
- ③ その他

(5) 閉会

5. 議事概要

(1) 開会

(2) WGの公開について

会議については基本的に公開、議事要旨については公開とし、資料については非公開とする旨を事務局側より説明を行った。

(3) 議題

- ① ICTによる環境負荷低減事例の募集について

資料WG 2-2に基づき、事務局側より説明を行った。

①に関する構成員からの主な発言は下記の通り。

- ・ I C Tソリューションで使用するネットワークについて、専用回線も入れるべきではないか。
- ・ I C Tに関する最近の動向としては2点ある。まず、データセンタについては日本国内で増設が進み、また、例えば上海など海外でも大規模なデータセンタが増加しているなど、国内外で集約化が進んでいる。2つ目として、端末はシンクライアント化し、ハードディスクを持たないものになっている。このうち、海外でデータセンタが集約されている動きがあることについては、このWGでも何らかの形で出してほしい。
- ・ オフィススペースが減少する、という点をうまく拾えるような質問項目を作るといいと思う。
- ・ ユーザではなくベンダでないと分かりにくい情報もあるので、このWGの構成員からも情報を集めていきたい。
- ・ アンケートで具体的な金額や台数を聞いても答えにくいのではないかと。I C Tソリューションの導入前を1として、それに対してどの程度効果があったかを聞く方が答えやすいだろう。あるいは、具体的な数値ではなく、自由記述の形式で回答してもらうのも良いのではないかと。例えばリードタイムが短くなった、など。
- ・ 生産量の向上は単に1つのI C Tソリューションを導入したことだけでなく、様々な企業努力の結果であるのが普通だろう。
- ・ I C Tを導入した結果、生産量の増加やコストの削減といった本来の導入目的以外に間接的な効果が生まれるという点は、まさにI C Tの特徴であると言える。今回のWGの目的は、I C Tの事例を収集しその環境効果をアピールすることなので、どういった効果があったのかを示せばよいのではないかと。
- ・ アンケートでは、I C T導入の直接の目的をまず質問し、それに加えて間接的な効果である環境面での効果を聞けるようにするなど、もう少し検討が必要である。
- ・ I C Tが環境に良い、という認識のない人に応募してもらうのはなかなか難しいだろう。
- ・ ユーザがI C Tソリューションの環境負荷削減効果を出すのは無理ではないか。出すとしても結局ベンダに依頼することになってしまう。
- ・ 今回のアンケートはあくまで一般向けのものとして考え、ベンダ向けのアンケートも検討した方が良いかもしれない。現在の質問の形式では、I C Tの専門家であるベンダがかえって混乱してしまう恐れがある。
- ・ 応募する企業のメリットについては引き続き検討が必要である。

## ②通信分野の電力消費量、CO<sub>2</sub>排出削減効果について

資料WG2-3に基づき、日本電信電話（株）西構成員、澤田環境経営推進プロジェクト主幹研究員より説明を行った。

### ②に関する構成員からの主な発言は下記の通り。

- ・ サーバの性能は急激に向上しており、サーバの性能当たりの負荷や、ディスクレスPCの普及等を考慮すると2010年の消費電力はさらに下がる可能性がある。
- ・ CO<sub>2</sub>排出削減効果を推計する想定シーンとしては、BEMS/HEMSを加えればほぼカバーできると思う。
- ・ 数千万人のデスクワークをどう扱うかも検討する必要があるのではないか。
- ・ 現状の技術を前提にした推計だと思うが、今後の動向として、パソコンにはハードディスクが無いのが当たり前になっていくはずだ。処理能力ももっと向上し、処理能力あたりの消費電力は1/10以下になると思われる。

### ③その他

- ・ 事務局より次回会合の予定が説明された。

## (4) 閉会

以上